

財務の方針

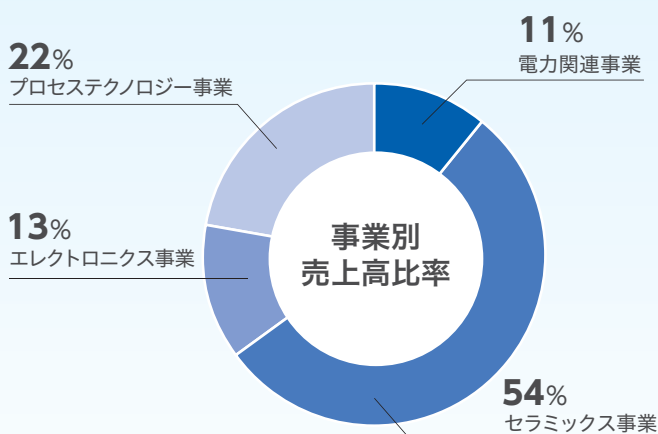
主要な経営指標と資本政策

当社グループは、ROEを主要な経営指標として採り上げ、株主重視の経営を推進しております。中長期の観点でROE10%以上の水準を意識し、事業リスクの変化に適合して持続的な企業価値の向上に資するよう資本政策を展開します。株主・投資家とのコミュニケーションによる資本コストの引き下げに努めるとともに、資本コストを上回る収益性確保に向け、経営資源をコア事業の拡大・コストダウンや開発・新規事業の立ち上げに効率的に投入してまいります。さらには財務健全性との両立を図りつつ、配当性向及び純資産配当率等を参照し、積極的な株主還元にも努めます。これらによりROEを構成する利益率、資本回転率、財務レバレッジを事業戦略と整合した健全な水準に維持することを目指します。

配当政策

当社は、株主に対する利益還元が経営の最重要政策の一つと考えています。基本方針として株主重視・ROE重視の経営を目指し、業績、財務体質、今後の事業展開などを総合的に勘案して連結配当性向30%程度を中期的な目処に利益の配分を行うこととしています。また、内部留保資金につきましては、既存コア事業の拡大や新規事業への設備投資など企業価値向上のために活用してまいります。

主要財務指標と決算概要



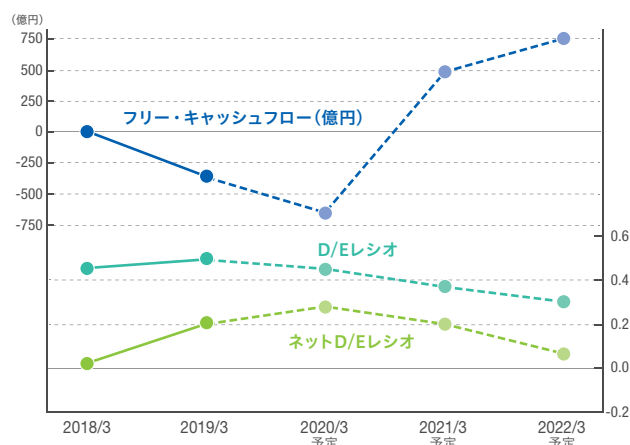
ポイント:売上高は過去最高を更新

- 売上高は4,635億円と、前期比3%増加し過去最高を更新。
- 電力関連とエレクトロニクスが減収となった一方で、セラミックスとプロセステクノロジーは増収。
- 営業利益は前期比8%減の647億円。
- 特別損失として、パッケージ事業やガイシ事業等について固定資産減損損失109億円、がいしの中国生産子会社の解散により関係会社事業損失30億円を計上。
- 当期純利益は前期比22%減の355億円。

フリー・キャッシュフローと財務構成

先行きのキャッシュ・フローおよび財務構成としましては、設備投資が先行し、フリー・キャッシュフローは2019年3月期、2020年3月期共にマイナスとなる見込みであることから、当面、有利子負債が資金残高を上回り、ネットD/Eレシオはプラスが継続する見通しです。2021年3月期には投資が一巡し、利益の増加も見込んでおり、フリー・キャッシュフローはプラスに転じる見通しです。

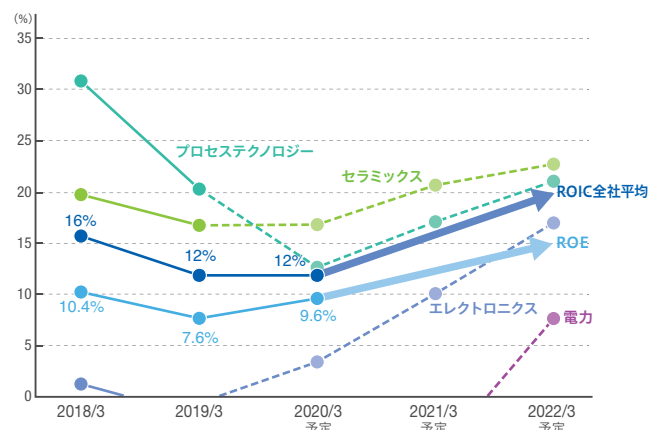
また、財務構成につきましては、財務の健全性の観点から50%以上の自己資本比率を確保しつつ、必要資金を有利子負債にて調達することでD/Eレシオ0.4程度を維持するなど、財務レバレッジも意識して運営していきます。



投下資本利益率-NGK版ROIC

中長期の観点でROE10%以上の水準を意識しており、これを実現するうえでROICの向上と一定の財務レバレッジを維持していきます。経営管理面では、自動車関連製品やHPCを中心に多額の設備投資を実施する予定であり、また今後、増収局面において運転資本が増加することから、事業効率の維持・向上について強く意識しています。

2020年3月期のROEは現時点での計画では10%に届きませんが、2021年3月期以降は、売上増、採算性の改善を図り10%を超える(上回る)見込みです。



売上高

4,635 億円

(前期比2.7%増)

営業利益

647 億円

(前期比7.6%減)

親会社株主に帰属する
当期純利益

355 億円

(前期比22.5%減)

ROE

7.6%

(前期比2.8ポイント減)

設備投資額

1,053 億円

(前期比46.9%増)

減価償却費

357 億円

(前期比17.9%増)

研究開発費

233 億円

(前期比10.3%増)